

# 近江 **さんすい**

2016/12 (第15号)



【写真】沖島（近江八幡市）

- 【レポート】「マザーレイクフォーラム運営委員会『琵琶湖の保全再生に向けて』  
をテーマにオープンミーティングを開催しました！」…………… 1
- 【レポート】「湖西圏域および湖北圏域の河川整備計画」を策定しました…………… 3
- 【レポート】「平成28年度 災害復旧技術専門家派遣制度について  
滋賀県内から2名が新規認定・登録」…………… 4
- 【パートナーだより】「栗東市内河川管理活動について」…………… 5
- 【砂防課事業紹介】「砂防工事現場の紹介」…………… 6
- 【砂防課事業紹介】「採石場の安全パトロールについて」…………… 7
- 【協会だより】「河川・砂防事業現地研修会」「全国治水砂防促進大会」ほか…………… 8

「琵琶湖の保全再生に向けて」をテーマに  
オープンミーティングを開催しました！



マザーレイクフォーラム運営委員会

11月に県内2箇所で琵琶湖保全再生計画に係るオープンミーティングを開催しました。今回は、その概要について、ご紹介します。

## オープンミーティングの概要

琵琶湖を後代に継承すべき「国民的資産」として位置付けた「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」が平成27年9月28日に公布・施行され、平成28年4月21日には国により「琵琶湖の保全及び再生に関する基本方針」が定められました。

これを受け、滋賀県では、住民や関係団体など多様な主体の皆さま方との幅広い意見交換を踏まえ、琵琶湖保全再生施策に関する計画を策定することとしています。

今回、その一環として「琵琶湖の保全再生に向けて」をテーマにオープンミーティングを開催し、参加いただいた皆さんと意見交換を行いました。

### ①大津会場

日 時：平成28年11月28日（月）15:00～17:00

場 所：滋賀県大津合同庁舎 7-B会議室

参加人数：34名（3グループに分かれて討議）

### ②彦根会場

日 時：平成28年11月29日（火）17:00～19:00

場 所：滋賀県立大学交流センター 研修室5・6

参加人数：15名（2グループに分かれて討議）



## 内 容

- (1) 琵琶湖の現状と琵琶湖保全再生計画について（説明）
- (2) グループ討議
- (3) 討議内容発表

## 大津会場での主な意見

大津会場では、NPOや企業、大学など、様々な分野の方々にご参加いただき、3グループに分かれて討議しました。

日頃から琵琶湖をフィールドに活動されている方も多く参加されていたため、最初の自己紹介から話が盛り上がり、予定していた一人30秒では全く時間が足りませんでした。

した。さらに、琵琶湖保全再生計画等についての鋭い質問も相次ぎ、その回答だけでたくさんの時間を使ってしまいましたが、「水質優先で本当に良いのか。」「どうすればビワイチが地域振興につながるのか。」など、短い時間の中、白熱した議論が展開されました。

また、「県内では様々な取組が行われており、そういう取組が琵琶湖固有の財産であり価値である。」「エコツーリズムや世界農業遺産、環境教育といった未来に向けての記載もあり、素晴らしい。」などの意見もありました。



## 彦根会場での主な意見

彦根会場では、大学生や大学関係者等にご参加いただき、2グループに分かれて討議しました。大津会場より人数が少なかったことと、事前に琵琶湖保全再生計画（素案）の勉強をされた方が多く参加されていたため、かなり深い議論となりました。

「琵琶湖が国民的資産って、本当にそうなのか。」「県内の人も琵琶湖の価値をどこまで理解しているのか。」など、こちらも白熱した議論がありました。

どちらのグループからも、「活かす取組」や「企業との連携」、「価値の発信」などについて、多くの意見がありました。



## 琵琶湖へのメッセージ、計画への提案

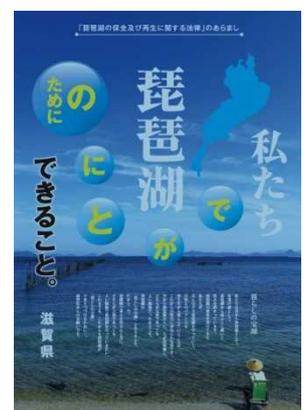
グループ討議のあと、「琵琶湖へのメッセージ」と「計画への提案」を書いていたいただきました。琵琶湖を愛する皆さんの「熱い想い」と「未来に向けた提案」は、知事にも届け、想いを共有していきます。

### マザーレイクフォーラム運営委員会委員より一言 「オープンミーティングでの議論に参加して」

参加者の方と議論を交わす中で、皆さんの琵琶湖の保全再生に対する熱い気持ちと今回の法律・計画への関心の高さというものを改めて感じました。

グループ討議においては、「琵琶湖の活用」「企業との連携」「価値の発信」についての意見が多くありましたが、琵琶湖の価値については、今年度、県内約3千人を対象とした県政世論調査を行っています。結果は、「水源としての価値」が53.7%で最も高く、次いで「観光資源としての価値」が12.2%、「古代湖としての価値」が11.0%でした。

「琵琶湖は本当に国民的資産なの?」「琵琶湖の価値って水でしょ。」という意見もありましたが、『琵琶湖の価値は水源だけじゃない!』このことを広く伝えていこうと心に誓いました。(滋賀県琵琶湖保全再生課 岡田裕行)



# 湖西圏域および湖北圏域の河川整備計画を策定しました

滋賀県 流域政策局 流域治水政策室（企画・計画係）

## ●はじめに

滋賀県では、県内を7圏域に分けて河川整備計画の策定を進めており、これまで5圏域（志賀・大津、信楽・大津、甲賀・湖南、東近江、湖東）で河川整備計画を策定しました。

このたび、残る湖西圏域および湖北圏域の河川整備計画について、それぞれ平成28年3月18日、同9月30日に国土交通省より認可されましたので概要を紹介します。



## ●河川整備計画の概要

河川整備計画では、今後概ね20年間で計画的に整備を図る河川とその整備内容を定めています。また、湖辺の保全・再生や、圏域内の全河川についての維持管理方針等についても記載しています。今後、整備計画に基づき計画的に事業を推進してまいります。

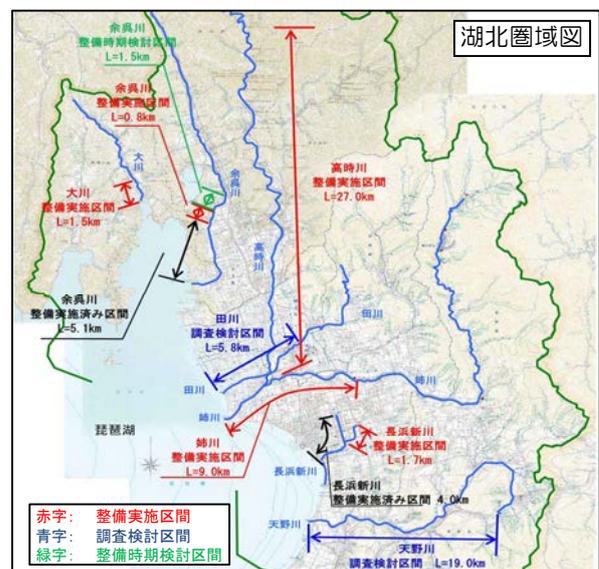
### 【湖西圏域の整備河川】

河川名	整備内容	延長(km)
安曇川	整備実施	11.1
鴨川	整備実施	3.2
	整備時期検討	0.1
八田川	整備実施	1.7
	整備時期検討	1.0
青井川	整備実施	0.6
石田川	整備実施	1.7
	整備時期検討	1.1
百瀬川	整備実施	0.6
	整備時期検討	1.5
生来川	整備時期検討	0.2



### 【湖北圏域の整備河川】

河川名	整備内容	延長(km)
余呉川	整備実施	0.8
	整備時期検討	1.5
大川	整備実施	1.5
姉川	整備実施	9.0
	高時川	整備実施
天野川	調査検討	19.0
長浜新川	整備実施	1.7
田川	調査検討	5.8



各圏域の河川整備計画の本文および概要説明資料は滋賀県のホームページに掲載しています  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/24kasenseibikeikaku/7kenikikasennseibikeikaku.html>

## 平成28年度 災害復旧技術専門家派遣制度について

### 滋賀県内から2名が新規認定・登録

#### 滋賀県流域政策局 流域治水政策室（防災係）

災害復旧技術専門家とは、国や都道府県の災害復旧業務に長年携わり、制度を熟知し災害復旧事業に関する高度な技術的知見を有する経験豊富な技術者です。災害発生時には地方公共団体等の要請に応じ、速やかに現地に赴きボランティアとして迅速かつ的確な技術的な支援・助言ができる（公社）全国防災協会が認定・登録した技術者で、北海道から沖縄県まで全国各地に255名（H28.3.31現在）います。

平成28年度、滋賀県内から橋本重一氏、中谷恵剛氏の2名が新規認定・登録され、計3名となりました。

交付式は、平成28年11月1日に県庁流域政策局内で執り行われ、松野流域政策局長から新規認定・登録者に対し登録書が交付されました。専門家の皆様の災害復旧現場での今後の活躍が期待されます。



災害復旧技術専門家 集合

（左から橋本重一氏\*、田中健晴氏、  
松野流域政策局長、中谷恵剛氏\*）

※新規認定・登録された災害復旧技術専門家



橋本重一氏



中谷恵剛氏

交付式写真

## 栗東市内河川管理活動について

河川管理パートナー 井上 馨

私の担当する栗東市内には金勝川（支流の細川、穴口川を含む）、葉山川、中ノ井川の3河川があり、毎月数回巡視して回り4年目を迎えました。私自身葉山川が山間から田畑の広がる最初の集落で生まれ育ちました。河川管理で回る県南部の地域は人口が増え、産業も盛んになり、河川も改修や付け替え等で天井川から平地の川へ整備が進んでいた矢先の平成25年9月15日、台風によって市内目川地域集落裏を流れる金勝川が決壊しました。大雨による洪水が原因ですが二度とあってはならない災害でした。

以前から県南には多く見られる天井川で大雨が降ると洪水になり、晴れの日が続くと川床から水がなくなるといった具合の河川ですが、水があれば野菜や洗濯物を洗う等大切に使われていました。子供が川に唾を吐きだしたり、ゴミを捨てたりすると叱られたのを覚えています。水があるとオイカワやカワムツが遡上してくるのを待って魚捕りをしたのを今も思い出します。

3つの河川には特徴があって金勝川は金勝山や阿星山（共に海拔600メートル以上）から一気に流れてくる川であり、葉山川は丘陵地帯から流れてくる川であります。また、中ノ井川は野洲川の水を取り込んでおり、常時水が流れていて川に生息する魚の種類も豊富ですが、雨が降り増水すると川の通る集落や道路が浸水することが度々です。

整備された河川は見た目がきれいになりますが、生活の発展とともに多くなるのがゴミです。ペットボトル等のプラスチック製品から自転車や家電等、いろいろなものが捨てられています。河川両岸から倒れた枯れ木、枯れ竹の多いこと。せっかく河川が整備され改修された所にゴミが多いのを見るのは辛いものです。それでも、河川をきれいにしようとする人達も多く、河川清掃を自治会やボランティアでやってくれている人達には頭が下がります。



（左）川岸の枯れ竹

（右）河川内に捨てられた  
ペットボトル

今後は小学校4年生には「やまのこ」、5年生には「うみのこ」の学習がありますが、山と琵琶湖を繋ぐ川の学習を学校ができないなら出前講座で魚つかみ等をやり、河川の大切さや生活の中で川を利用した話等ができないかといろいろと考えています。

河川管理パートナー制度や「やまのこ」のボランティア活動を通して水の大切さや生活に川を活用してきたことなどを伝え、そうすることで多くの人に河川について興味を持っていただき、川に対する関心を高めることでゴミのポイ捨てのないきれいな滋賀にしたいと思っています。

## 砂防工事現場の紹介

### 滋賀県砂防課

#### 【工事概要】

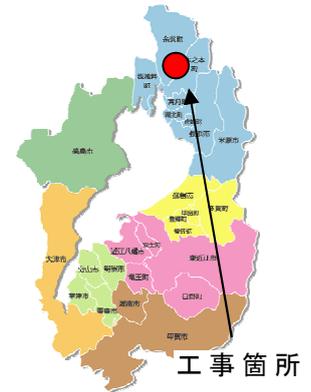
工事名：森の前川補助通常砂防（総流防）工事

工期：平成28年3月11日～平成29年5月31日

工事場所：長浜市余呉町坂口

工事概要：透過型砂防えん堤1基（堤高6.5m, 堤長51.4m）

受注者：株式会社秋村組



#### 【箇所概要】

当該溪流は、溪床には山腹崩壊や長年の浸食による不安定土砂や倒木が多く堆積しており、土砂災害が発生する危険性が高い溪流です。

平成18年10月に土砂災害防止法に基づく警戒区域および特別警戒区域を指定しています。

土砂災害のおそれがある区域内には人家の他に、JR北陸本線、北陸自動車道や国道365号といった重要交通網・緊急輸送道路があります。

#### 【工事内容】

森の前川砂防事業は平成17年度から事業着手し、平成27年度までに2基のえん堤が完成しています。現在3基目のえん堤工事に着手しており、この工事が完了すると計画している全てのえん堤が完成します。

当該箇所では、えん堤3基とも形式は透過型を採用しています。

近年、流木による甚大な被害が頻発しており、流木対策の重要性が増しています。透過型えん堤は土砂とともに流木を効果的に捕捉できるため、その効果が発揮されることを期待しています。



## 採石場の安全パトロールについて

### 滋賀県砂防課

滋賀県砂防課では森林部局等と連携し、県内の採石場の安全パトロールを年間3回実施し、災害発生のおそれがないか、採取計画通り操業されているか等の事項について現地調査を行い、必要に応じ事業者に対して指導を行っています。

本年度第1回目の採石場の安全パトロールを12月7日に実施しました。

近年の傾向として骨材需要の減少等があり、計画通りに採取が進んでいないところもあります。そういった状況を踏まえて、採取場の維持管理の状況などの確認を行いました。



# 協会だより

## 河川・砂防事業県外現地研修会

平成28年10月18日（火）、京都府宇治市、伏見区、右京区において、各市町および県担当者を対象とした現地研修会を、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所および淀川河川事務所のご協力のもと、開催しました。

今年度は、琵琶湖治水に深く関わる淀川水系の治水事業について学ぶため、天ヶ瀬ダム再開発事業、淀川直轄河川改修事業（宇治市塔の島地区）、桂川直轄河川改修事業（伏見区淀大下津地区）、桂川直轄河川改修事業（嵐山地区）を現地研修場所としました。

### ①天ヶ瀬ダム再開発事業（宇治市宇冶金井戸）

この事業は、ダム放流機能を高めることで治水と利水の目的を達成し、ダム湖の水をより効率的に使えるようにするために始められました。

研修では、建設中のトンネル式放流設備の内部を見学させていただくことができました。



### ②淀川直轄河川改修事業(宇治市宇治塔川)

宇治市塔の島にて、事業概要をご説明いただきました。

観光地ということもあり、工事の期間が限られており（お花見、紅葉の時期は避けている）、河川改修工事を一年を通して施行するのが難しいこと、他にも遺跡の検出による埋蔵文化財調査、硬質地盤により施工時間が要したことを伺いました。

また、護岸等に樹木がある場合は、移植を行い、極力保存しているとのことでした。



### ③桂川直轄河川改修事業(京都市伏見区淀水垂町、右京区嵯峨中ノ島町)

淀水垂町・大下津地区では、「引堤（ひきてい）」という、川幅が狭い箇所の堤防を川の外側に移動させて川幅を広げ、安全に洪水を流す能力を高める方法を取っています。

嵐山地区は、平成25年の台風18号で影響を受けた護岸の復旧および堆積土砂の撤去をされました。

こちらの地区も塔の島同様観光地のため、施行期間が配慮されています。



### 河川・砂防事業県内現地研修会

平成28年11月1日(火)、蒲生郡竜王町鶴川、日野町松尾、近江八幡市沖島町にて東近江土木事務所のご協力のもと、市町および県担当者を対象とした現地研修会を、開催いたしました。

#### ①祖父川河川改良事業(蒲生郡竜王町鶴川)

祖父川では、当面の間、抜本的な河川整備が見込めないことから、人的被害を回避し堤防の強化を図る工事（トランク河川工事）を進めています。



#### ②出雲川河川災害復旧事業（蒲生郡日野町松尾）

出雲川では、平成27年9月台風18号で被災した護岸の災害復旧工事を実施し、平成28年1月19日に工事を着手、平成28年5月31日に完了しています。工事概要の説明とあわせて、災害復旧事業の国庫負担申請や査定対応についても解説していただきました。



### ③ 沖島地区急傾斜地崩壊対策事業（近江八幡市沖島町）

離島での工事となるため、仮栈橋を設置して、対岸の小田ヶ浜から台船で資材を運搬しています。島内では、モノレールを設置し、運搬しています。これは、斜面の下に民家があるからです。また、「滋賀県生物環境アドバイザー」から指導・助言を受け、工事区間内の樹木・石積等は、可能な限り残すようにされています。



## 近畿地方治水大会

平成28年11月14日(月)に、近畿地方治水大会がホテルグランヴィア和歌山で開催されました。

大会開催にあたり、和歌山県副知事<sup>しも ひろし</sup>下 宏氏、全国治水期成同盟会連合会会長陣内<sup>じんのうち たかお</sup> 孝雄氏、和歌山県河川協会会長日裏<sup>ひうら かづみ</sup> 勝己氏から挨拶がありました。

次に意見発表では、和歌山県那智勝浦町長寺本<sup>てらもと しんいち</sup> 真一氏から「平成23年台風12号豪雨災害から5年 洪水・土砂災害による犠牲者をゼロにする取り組み」というタイトルで講演がありました。

最後に大会決議が読み上げられ、大会決議が採択され、次回開催県が京都府に決定しました。



## 全国治水砂防促進大会

平成28年11月15日（火）に、東京のシェンバツハ・サボ（砂防会館別館）において開催されました。大会開催に先立ち、宮崎県知事河野 俊嗣氏から『常在危機』を胸に災害対策に取り組む」というタイトルで特別講演がありました。

大会は、全国治水砂防協会会長の綿貫 民輔氏の挨拶に始まり、来賓祝辞では、国土交通副大臣の末松 伸介氏がされました。その後、「強靱な国土へ、これからの砂防」と題して国土交通省水管理・国土保全局砂防部長の西山 幸治氏から講演が、続いて熊本県阿蘇市長の佐藤 義興氏と和歌山県那智勝浦町長の寺本 眞一氏から意見発表がありました。

大会終了後、本大会と近畿の砂防関係事業の促進に関する提言書を持って、県選出国會議員および国土交通省砂防部へ要望活動を行いました。国土交通省砂防部では、西山砂防部長と面談し、意見交換をさせていただきました。



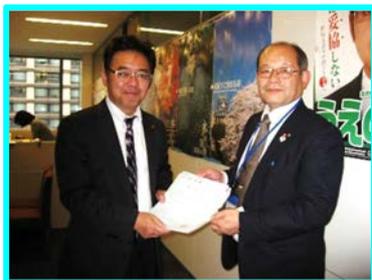
## 治水事業促進全国大会

平成28年12月2日（金）に、東京のシェンバツハ・サボ（砂防会館別館）において開催されました。大会に先立ち、株式会社復建技術コンサルタント事業企画本部理事の熊谷 順子氏から「東日本大震災の対応について—大震災から得た教訓—」と題する特別講演がされました。

大会は、全国治水期成同盟会連合会会長の陣内 孝雄氏の挨拶に始まり、続いて国土交通大臣の石井 啓一氏から来賓挨拶がありました。

その後、治水事業概要説明が国土交通省水管理・国土保全局治水課長の泊 宏氏から、続いて北海道南富良野町長の池部 彰氏から意見発表がありました。

大会終了後、県選出国會議員へ本大会および近畿地方治水大会の要望書を持って、要望活動を行いました。議員会館では、うえの衆議院議員、武村衆議院議員、武藤衆議院議員、小鍵参議院議員とお会いすることができ、要望書を手渡しました。



近江さんすい 第15号 平成28年12月発行

〔発行者〕 滋賀県河港・砂防協会

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目 1-1 滋賀県土木交通部流域政策局内

TEL 077-528-4272 ・ FAX 077-528-4904 ・ URL <http://www.maroon.dti.ne.jp/shigakako/>